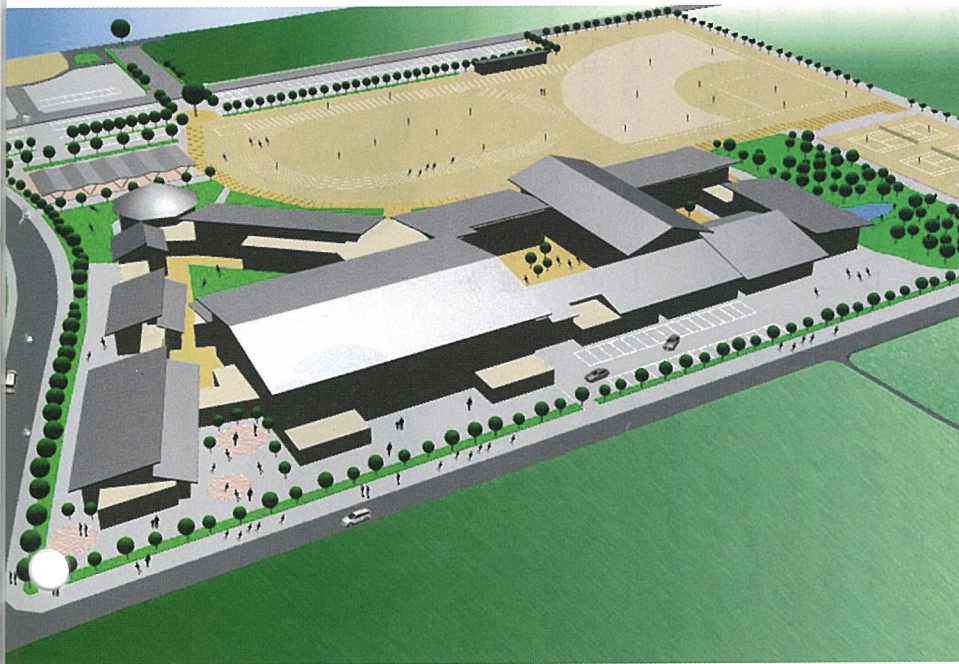


教科教室型で生徒の

自主自立を目指す

◆見えてきた新横中のイメージ

新しい横芝中学校の建設に当たっては、「みんなで作ろう新しい横中」をスローガンに、様々な立場の方から、幅広くご意見をいただき進められてきました。そして、昨年12月には中学校建設推進委員会が開かれ、建設計画の全体像が示されました。そこで今号では、どのような学校が建設されようとしているか、イメージを含めて、その概要をお知らせします。



北側から見た新しい横中のイメージ

中学校で授業を受ける方法として、現在の横中が行っている「特別教室型」と、最近注目されている「教科教室型」の2つがあります。新しい横中は「どちらも可能」との設計方針で進められてきました。が、先進中学校の視察や各研究会で議論を重ねたところ、①学習教材や掲示等、学習環境がすばらしい②教科の特徴もつながる③授業形態も工夫できる、子供の主体的な活動につながる、など、教科教室型の良さが取り上げられるようになりました。

昨年12月に開かれた委員会では、各研究会での協議結果や考えなどが報告され、設

計に関する基本について承認されました。これによって横中は、教科教室型の新しい横中として生まれ変わることにまりました。

(注) 教科教室型の学校

教科ごとに専用の教室があり、生徒はその日の時間割により教室を移動する。各教室には、教科専用の掲示物や資料を備え付けることができる

ため、幅広い授業展開が可能となる。また、教科ごとに教室を移動するため、生徒自身の気持ちの切り替えや、次の授業に対する積極性が図られ

る。一方で、移動時間が多く生徒が落ち着かないのでは、クラスのまとまりがなくなるのでは、などの意見もある。

(注) ホームベース

教科専用の教室とは別にクラス全員の居場所となる部屋。ロッカーがあり、登校後教科書などの荷物を置く。ホームルームも行われるが、普通教室と比べやや狭い。



▲ホームベース

クラスのまとまりを大切にしようとして工夫されたホームベース (丸山中)



ホームベース入口▶